

経済まで縛る

「日米安保条約」に驚きの声



11月19日、「日本国憲法と安保条約」の学習会を行いました。講師は吹田自治都市研究所の岩根良さんです。冒頭、山口正史会長が「総選挙です。右を見ても左を見ても右ばかりの状況です。日本維新の会の石原代表は『憲法そのものをつくり直す』と恐いことを言っています。私たちは日本国憲法の良さを

語っていきましよう。」と開会の挨拶を行いました。

岩根さんは、沖縄米軍基地問題とオスプレイ、動的防衛協力と9条との矛盾、原発問題、TPP問題、日本外交の在り方等、現在様々な方面で「アメリカいいなり」に対する疑問や怒りが広がっていることを指摘。日米安保の是非を根本から問い直す議論の重要性を強調しました。その後、安保条約が締結されて60年、アメリカがベトナムやイラクなどで戦争を起すたびに安保条約の中身が変質して、日本がそれに従属してきたことを60年の経過を追って説明しました。

日本の現実社会と安保条約との関係では、第2条にある「その国際経済政策におけるくい違いを除くことに努め」の条文が、農産物の輸入「自由化」や円高政策、労働法制や流通業の規制緩和につながっていること、第5条の「共通の危険に対処するように行動する」によって、自衛隊が日米共同作戦の奥深いところまで米軍の一翼として組み込まれていること、また、第6条の地位協定によって日本に133の米軍基地、4万8千人の兵士を受け入れ、夜間発着訓練や低空飛行訓練に抗議できない実態を学びました。この安保条約を廃棄して日本国憲法を活かす政治ができれば平和で明るい未来が開けてくることも分かりました。学習会に参加した辻一平さん(千里山支部)は「安保条約を廃棄する手続きの簡単さに驚きました。こちらから通告すれば一年後には終了できるんですね。基地も返還され、社会保障も充実できると思います。」と感想を語っています。

税務調査や国保料の減免運動などで、憲法を暮らしに生かす取り組みを行っています。今度の総選挙では憲法を守る勢力を大きくすることを確認して学習会を終わりました。

学習会に参加された皆さんの感想

北支部 大町さん

TPPに参加することが農業だけでなく、日本の経済に関係することがわかりました。また、原発、TPP、消費税が安保に根があることのしくみがよく解った。

北支部 月田 照己さん

安保について良く理解できた。廃止して住み良い日本を造りたい。

江坂西支部 木村 豊さん

80年代の時にも安保条約を学習したことがあります。今でも安保条約がきつい縛りになっているなど感じます。原発政策も安保条約によってアメリカいいなりになって、脱原発が明確に打ち出せないことがわかりました。選挙でおおいにアピールする必要があると思います。

江坂西支部 森 長英さん

普段は、憲法とか安保とか考えなかったけど、昨日の学習会はいいい機会になりました。今の政治が、安保条約によって行われていること、民主も自民も安保にとらわれているから同じ政治になってしまふことを、選挙の中で、もつと国民に知らせていく必要があると思いました。

今度の選挙が増税阻止の

チャンスともっと伝えたい！

11月18日(日)に18名で「拡大統一行動」を行いました。今月の行動では、午前中に旭通商店街等の商店をハンドマイクで宣伝しながら、訪問しました。訪問した商店のほとんどの方が快く署名に応じていただけました。消費税増税阻止の署名が76名分、脱原発署名が69名分集まりました。中には前日に届けていた署名を書いて準備している方もいました。「消費税は大変、頑張つて」との励ましの声や「これ以上消費税は上げられると廃業するしかない」との不安の声もありました。「もう増税は決まっているじゃないか」との声には、「この選挙で変えられます。」と話したことで署名に応じてくれる方もいました。午前中の行動終了後は、副会長の工藤さんが今回も団子汁やおにぎりなどを事務所準備していただき、食べながら行動の感想を交流しました。参加した役員さんは「先に署名を書いて準備してくれていて、本当にうれしかった。」「今度の選挙がチャンスだともっと伝えていきたい。」と行動の感想を話し合いました。午後からは6名3組で会外の建設業者を訪問しました。

会費集金は会員の心をあしめる活動です 毎月10日までには集めましよう
商工新聞は経営のヒント・ノウハウの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましよう